

掘削の際にも立ち会った。

調査箇所は北側に位置する拝所側から南にかけて緩やかに傾斜するところである（第19図）。地層は次のように分層できる（第20図）。

I 層 表土、もしくは旧見張所の軒打ち部分。濁黄褐色土で堅く踏み固められている。

II 層 盛土A。暗茶褐色土。締まりも一部を除き良好。入念に固められたようである。

III 層 旧表土。有機物を含む黒灰色土。

IV 層 盛土B。明茶褐色土。粘性を帯び、堅く締まる。一部に山砂をブロック状に含む。

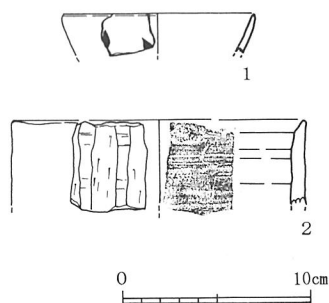
V 層 地山、もしくはその漸移層。灰褐色混じりの明茶褐色土。堅い。VI層が表面を削つても滑らかであるのに対し、本層は毛羽立つという相違がある。

VI 層 地山。灰褐色混じりの明赤褐色粘質土。一部は固結し、岩石状となっている。

III層以下は北側から緩やかに傾斜するという旧地形に対応している。

一方、II層は南側部分にのみ認められ、下位に旧表土であるIII層があることから、旧見張所を設けるにあたり、水平に保つための地業を行った際のものであろう。また、IV層から磁器染付小片が出土しており、明治以降に陵前整備の一環として、客土されたものと考えられよう。

また、給排水施設埋設替えと排水施設工事箇所においては、最深で約



第21図 山科陵の出土品 (1/4)

五〇センチ掘削したが、地山のVI層は認められず、盛土であるII層、もしくはIV層であった。

遺物は先述のIV層から出土した磁器、土師質土器小片各一点のみである（第21図）。

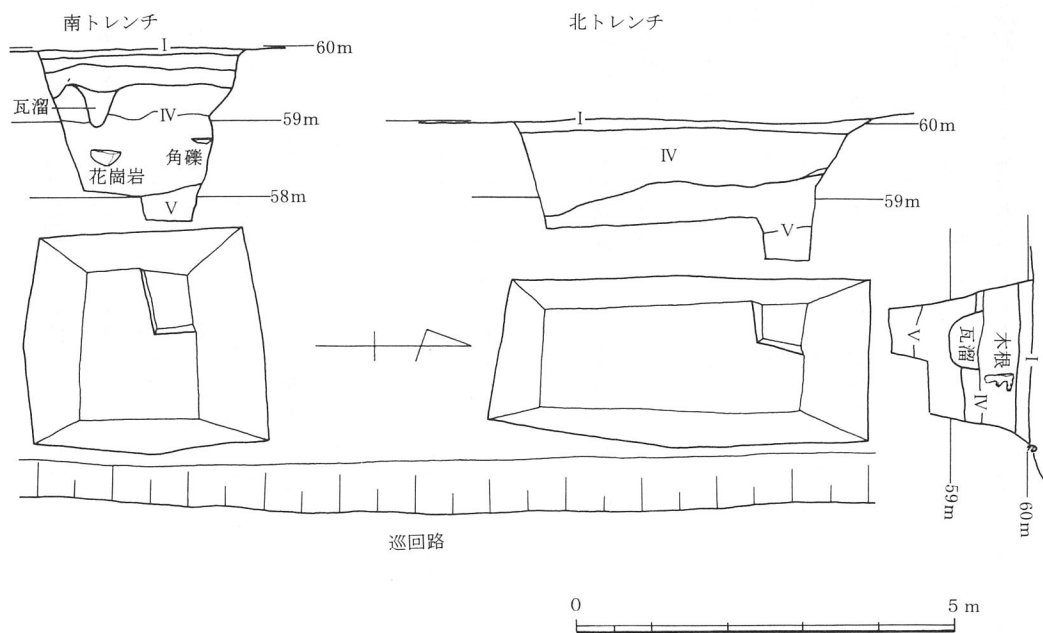
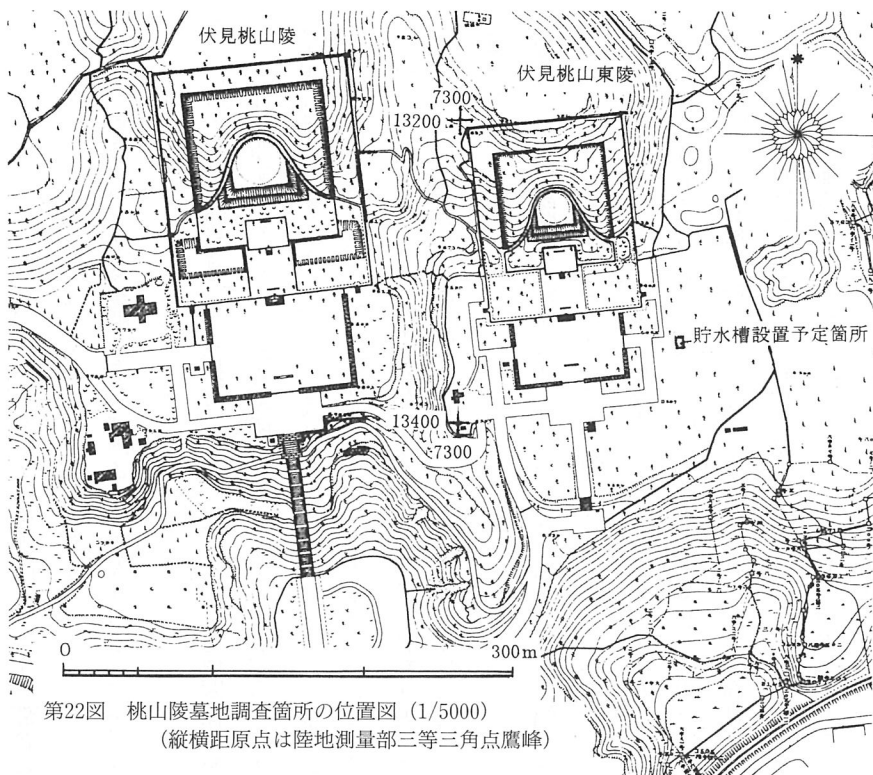
1は染付のコバルトブルーの発色が鮮やかな磁器碗の口縁部である。2は器種不明。植木鉢や土管

等の可能性もあろう。上端部で径一五・六センチ前後に復元される円筒状の形状を呈する。外面は横方向と思われるナデで調整した後に、幅約一・二センチ単位の縦位のヘラケズリにより仕上げている。内面はヨコナデである。上端は斜めにカットされており、口縁部と考えられるが、一部に表面の荒れた粘土塊が付着しており、擬口縁とも考えられよう。以上の調査結果をふまえ、工事は予定どおり施工した。

（福尾 正彦）

桃山陵墓地防災整備工事箇所の事前試掘調査

桃山陵墓地は、京都市伏見区桃山町の古城山を中心とした約一三一万平方メートルの地域である。域内には明治天皇伏見桃山陵、昭憲皇太后



伏見桃山東陵、桓武天皇柏原陵の三陵が位置する。当地は、豊臣秀吉により伏見城が築かれており、その本丸が伏見桃山陵の北端を一部含んだ山上にあったことが絵図などによってうかがわれる。

今回、陵墓地内の防災整備工事が計画され、防火貯水槽（内法長さ八メートル×幅五メートル×深さ二・五メートル）を設置することとなった。設置予定地は伏見桃山東陵拝所の東方に位置し、伏見城関係の施設としては学問所があったとされる箇所付近にあたる（第22図）。現状では平坦な地形を呈している。そのすぐ南側の崖下には大きく入り込んだ船入がつくられていた。当部では平成一〇年度に予定されている当該工事の際の調査に備えて、事前に遺構・遺物の存否、その性格・時期等を確認し、今後のデータとするため、平成一〇年一月二六日～二九日まで試掘調査を行った。

調査は貯水槽設置予定箇所北トレンチ（長さ五メートル×幅二メートル）、南トレンチ（長さ三メートル×幅三メートル）の二本のトレンチを設け、最大二・三メートル掘り下げた。その結果、地層はⅠ層 表土、Ⅱ層 盛土A、Ⅲ層 旧表土、Ⅳ層 盛土B、Ⅴ層 地山となっていた（第23図）。Ⅱ層は南トレンチでのみ認められ、その上面は東陵拝所のレベルに対応している。同時期に整地されたものであろう。Ⅲ層も南トレンチで確認されたのみであり、陵所整備以前の地表面と考えられる。本層から瓦溜まりが掘り込まれている。Ⅳ層は地山の土をブロック状に含み、瓦や石垣の石材を含んでいる。一気に盛り上げられたものであろう。Ⅴ層の地山は北側から南側にかけて緩やかに下降しており、旧地形に対応しているものと考えられる。

遺物としては、瓦溜まりやⅣ層から多くの瓦が出土している。大きさは一〇センチ×一〇センチにも満たないものが多い。そのほとんどは黒く燻した燻瓦である。平瓦と丸瓦が認められ、棧瓦は含まれていない。これらは厚さ一・五センチ以上を計る厚手の製品で、丸瓦は玉縁を有するものである。赤変したものもあり、二次焼成を被ったことを示すものであろう。

調査の結果、伏見城に直結するような遺構・遺物は確認できず、平成一〇年度の本工事の際には、本部職員も参加する立会調査で対応することとした。

（福尾 正彦）

男狭穂塚女狭穂塚陵墓参考地擬木柵取設 工事箇所の立会調査

宮崎県西都市に所在する男狭穂塚女狭穂塚陵墓参考地内の男狭穂塚と女狭穂塚は、全国的に見ても有数の規模を誇る古墳である。平成六年度に外周埴垣改修その他工事が施工され、男狭穂塚の西側部分から女狭穂塚西柵れ部付近に対応する外周部分約四七〇メートルに関しては、金網フェンス柵が取設けられた。この度、前回施工されなかった女狭穂塚西柵れ部付近から前方部西南隅角部分までの一四〇メートル区間に、擬木柵の設置工事が実施されることとなった。そこで、平成一〇年二月二四